

2023 年度 小委員会活動成果報告

(2024 年 2 月 5 日作成)

小委員会名	雪荷重・対雪設計小委員会		主 査 名：中島 肇 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)		委員長名：五十田 博 (主 査 名：森 保宏)
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築物荷重指針・同解説の改定（2025 年予定）を見据えて、雪荷重に関する部分について国際的視野からの検討および執筆を進め、支部共催事業である講習会の開催に寄与することを目的とする。また、単に荷重としてだけでなく建築設計時に考慮すべき対雪設計についても広く情報を収集し、知識の体系化を図り、講習会などを通して正しい雪対応策を社会に広めることも目的とする。</p> <p>初年度：・建築物荷重指針・同解説（改定版）のための資料収集 ・対雪設計に関する課題と対策についての資料収集</p> <p>2 年度：・改定版の執筆 ・対雪設計の課題に対する対策についての検討</p> <p>3 年度：・荷重指針 2025 年改定版の執筆 ・2023 年度大会 PD の企画・実施 ・対雪設計技術の整理・体系化</p> <p>4 年度：・荷重指針改定版の小委員会および運営委員会の査読に対する原稿修正 ・荷重指針を活かす設計資料の目次の検討、執筆</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：中島 肇（日本大学） 幹事：千葉隆弘（北海道科学大学）、佐川隆之（清水建設） 委員：三橋博三（東北大学）、苫米地司（北海道科学大学）、高橋 徹（千葉大学）、富永禎秀（新潟工科大学）、石川浩一郎（福井大学）、喜々津仁密（国土技術政策総合研究所）、堤 拓哉（北方建築総合研究所）、久次米 薫（日建設計）、菊池浩利（清水建設）、石澤賢史（大成建設）、大塚清敏（大林組）、松下拓樹（寒地土木研究所）</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p><u>建築物の対雪設計 WG</u>：建築物における着雪や落雪など設計上考慮すべき雪の問題を対象に、その対策や設計法について検討と体系化を行う。</p> <p><u>建築物の火山作用検討 WG</u>：火山の噴火と降灰にともなう建築物への積灰の影響を中心に、類似する荷重である雪荷重との整合性も考え、建築物の火山作用の評価法を取りまとめる。</p>		
2023 年度予算	240,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s25/	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	1. 構造部門（荷重）PD「荷重指針 2025 改定に向けて—雪荷重の評価方法と屋根上積雪荷重の設定方法」 参加者数 143 名 『同名資料』
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 荷重指針 2025 改定に向けて、2023 年度大会 PD を企画・実施し、雪荷重の評価方法等をディスカッションし、雪荷重の執筆方針を固めた。荷重指針 2025 年改訂版の執筆に着手した。</p> <p>2. 対雪設計 WG：対雪設計技術に関する情報を収集し、現状の課題、対策を整理した。</p> <p>3. 火山検討 WG：評価対象となる建築物の種別、評価対象となる火山作用の種類、荷重に対する考え方、課題を整理した。</p>
委員会活動の問題点・課題	1. 委員会の性格上地方在住者が多いため、より多くの委員の方が出席できるような zoom による開催も合わせて日程調整を行った。